マラソン活性化の新たな構想について

2021年6月21日

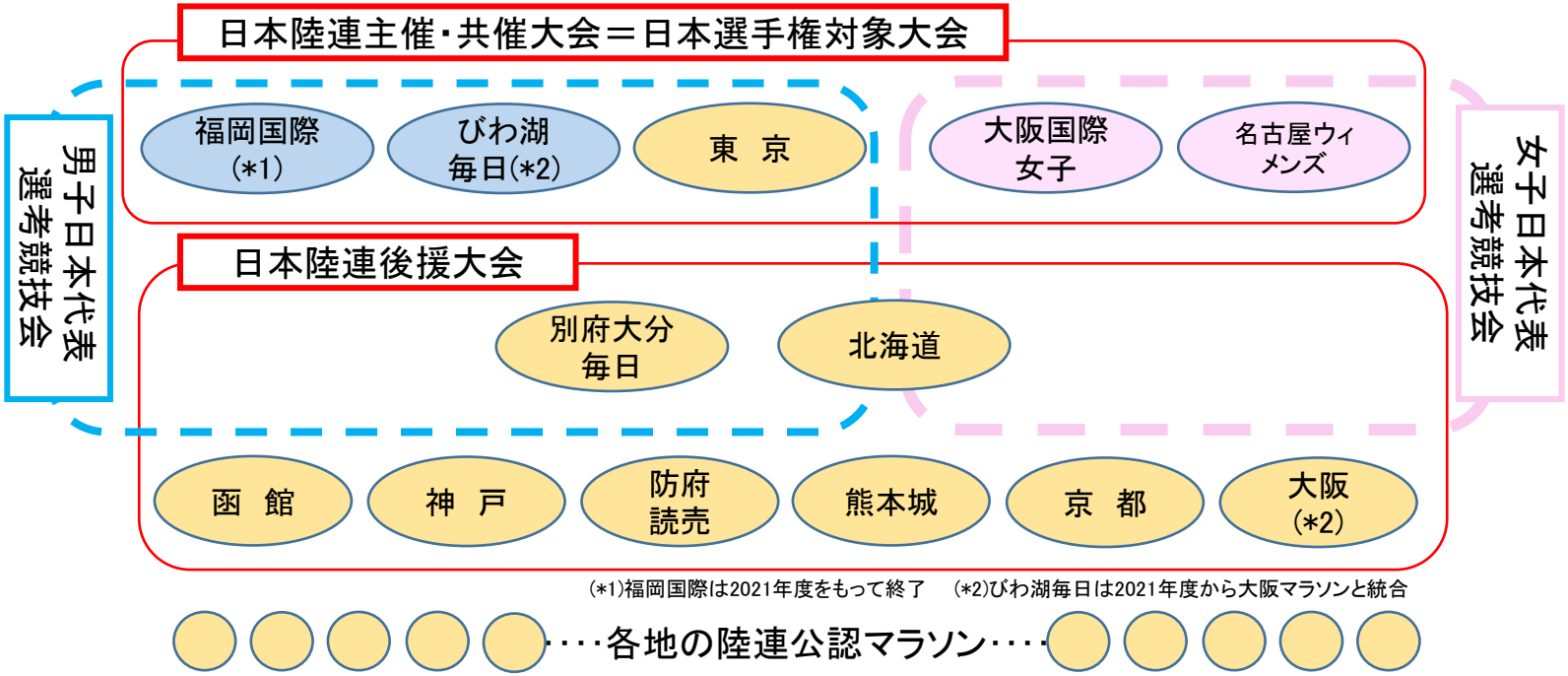
公益財団法人　日本陸上競技連盟

JAAF

Japan Association of Athletics Federations

マラソン「JMCシリーズ」について

日本のマラソンの現状



- 各大会で充実した運営にご尽力いただいているが、2016年度（MGCシリーズ導入の前）までは日本陸連としてマラソン界全体の価値創造ができていなかった
- 日本代表の選考も基準が不明瞭との指摘が多かった

東京2020の代表選考＝マラソングランドチャンピオンシップ（MGC）

MGCシリーズ
2017年7月～2019年4月

- 福岡国際
- さいたま国際
- 東　京
- 大阪国際女子
- びわ湖毎日
- 名古屋ウィメンズ
- 別府大分毎日
- 北海道

ワイルドカード
（期間中のすべてのWA公認大会）

→

MGC
2019年9月15日　東京

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

→

MGCファイナルチャレンジ
2019年12月～2020年3月

- 福岡国際
- 大阪国際女子
- 東　京
- 名古屋ウィメンズ
- びわ湖毎日

→

代表決定

主要マラソンを初めてシリーズ化し、明確な基準を示してオリンピック代表を選考

➡・2年余にわたり注目を集め、各大会やマラソン全体の価値が向上

・選考基準や代表になる道筋を明確にしたことによりレベルが向上

➡導入当初は疑問視する声もあったが、「選考」「強化」「普及」が連動し大成功

マラソンの日本選手権

マラソンの日本選手権はこれまで、日本陸連主催の大会を持ち回りで指定し、その大会の日本人最上位選手を日本選手権者としてきた。
2019年はMGCを日本選手権とした。

年（回）	男子　指定大会と優勝者　（大会での順位）		女子　指定大会と優勝者　（大会での順位）	
2016年（第100回）	びわ湖毎日（3月）	北島　寿典　（2位）2時間09分16秒	名古屋ウィメンズ（3月）	田中　智美　（2位）2時間23分19秒
2017年（第101回）	東京（2月）	井上　大仁　（8位）2時間08分22秒	さいたま国際（11月）	岩出　玲亜　（5位）2時間31分10秒
2018年（第102回）	福岡国際（12月）	服部　勇馬　（1位）2時間07分27秒	大阪国際女子（1月）	松田　瑞生　（1位）2時間22分44秒
2019年（第103回）	MGC（9月）	中村　匠吾　（1位）2時間11分28秒	MGC（9月）	前田　穂南　（1位）2時間25分15秒
2020年（第104回）	びわ湖毎日（3月）	作田　直也　（4位）2時間08分59秒	名古屋ウィメンズ（3月）	一山　麻緒　（1位）2時間20分29秒

・競技者にとって日本選手権としての意識が低く、関係者の間でも認知度が低い
・日本選手権者がそのシーズンに最も高いパフォーマンスを残したとは限らない
・トラック＆フィールドの位置づけは日本選手権≒代表選考競技会になっているが
　マラソンは日本選手権≦代表選考競技会になっている

マラソンの現状課題を踏まえた未来への施策

これらの課題を踏まえ、日本のマラソンの活性化させる策として
ジャパンマラソンチャンピオンシップ（JMC）シリーズ
の創設

最高レベルの競技者を
日本選手権者として
評価する仕組み作り

日本選手権のタイトルと
日本代表選考との連動

選手強化にもつながる
代表選考システムの
構築

東京2020オリンピック、
MGCの
レガシーの継承

マラソンの価値を高め
陸上界全体を牽引する
システムの構築

マラソン活性化の新たな構想＝「JMCシリーズ」

日本の公認マラソン大会を体系化し
各大会の独自性を尊重しつつ、全体の価値を向上

全国各地の公認大会も加盟できる仕組みで
各大会、日本のマラソン全体の活性化につなげる

シリーズ加盟大会で出た記録や順位をポイント化し
異なる大会の結果の比較、評価を可能に

一定期間内の獲得ポイントで総合成績を決め
最上位＝「今、最も強いランナー」を日本選手権者に

シリーズ総合成績を日本代表選考(*)に直結させ
日本選手権者の価値を高め、選考基準を明確化

マラソンの価値を高め
陸上界全体を牽引する
システムの構築

東京2020オリンピック、
MGCの
レガシーの継承

最高レベルの競技者を
日本選手権者として
評価する仕組み作り

日本選手権のタイトルと
日本代表選考との連動

選手強化にもつながる
代表選考システムの
構築

(*) オリンピックの代表選考は別方式を想定

JMCシリーズ構想に関する経過と手続き

2017年5月	MGCの開催について発表
2017年8月 ～2019年4月	MGCシリーズ ワイルドカード対象期間
2019年9月	MGC開催
2019年12月 ～2020年3月	MGCファイナルチャレンジ
2020年11月	日本陸連理事会 マラソン日本選手権の「年」単位から「年度」単位へ変更を承認 （マラソン以外の種目は従来から年度単位で実施されていた）
2021年3月	日本陸連理事会 マラソンのシリーズ化の構想を説明、了解を得る

➡シリーズ化に向けて具体的に動ける環境が整った

JMCシリーズのポイント

大会をグレード分けして
それぞれに加盟要件、付与する権利を定める

各大会は規模、運営状況等に
応じてグレードを選択し加盟

JMCシリーズの対象期間

JMCシリーズの成績は、直前の期と当該年度の期の2つの期を通じた成績（ポイント）により決定する

第0期 （2020年12月～2021年10月）	第1期 (2021年11月～2022年3月)	第2期 (2022年4月～2023年3月)	第3期 (2023年4月～2024年3月)	・・・

【JMCシリーズⅠ対象期間＊】

＊2020年12月～2022年3月

【シリーズⅠ】第105回日本選手権者決定

【JMCシリーズⅡ対象期間＊】

＊2021年11月～2023年3月

【シリーズⅡ】第106回日本選手権者決定

【JMCⅢシリーズ対象期間】

【シリーズⅢ】※MGC　第107回日本選手権者決定

JMCシリーズの対象期間一覧

第0期(2020年12月～2021年10月)	シリーズⅠ	期間：2020年12月～2022年3月	シリーズⅠチャンピオン ＝第105回日本選手権者
第1期(2021年11月～2022年3月)			
第1期(2021年11月～2022年3月)	シリーズⅡ	期間：2021年11月～2023年3月	シリーズⅡチャンピオン ＝第106回日本選手権者
第2期(2022年4月～2023年3月)			
第2期(2022年4月～2023年3月)	シリーズⅢ	期間：2022年4月～2024年3月	シリーズⅢチャンピオン ※第107回日本選手権者は2023MGC優勝者
第3期(2023年4月～2024年3月)			
第3期(2023年4月～2024年3月)	シリーズⅣ	期間：2023年4月～2025年3月	シリーズⅣチャンピオン ＝第108回日本選手権者
第4期(2024年4月～2025年3月)			

パリ2024オリンピックの代表選考とJMCシリーズとの関係

- パリ2024オリンピックのマラソン日本代表選考の方法は現時点では未定だが、東京2020の代表選考と同様に**「MGC形式」の導入を検討**している
  - ・MGCの開催時期・場所は未定（調整中）
  - ・想定スケジュール＝東京2020のMGCと同様を想定

～2023年春	MGC出場権争い（前回のMGCシリーズ）
2023年秋	MGC
～2024年3月	MGCファイナルチャレンジ

- オリンピックの代表選考と、JMCシリーズとの関係
  - ・JMC加盟大会で一定条件を満たした競技者は、MGC出場権を獲得
  - ・ワイルドカードによるMGC出場権取得はJMC加盟大会及び一部国際大会に限定
  - ・オリンピック代表はMGC及びMGCファイナルチャレンジで選考

  ※JMCシリーズの成績はそのままオリンピック代表選考に直結しない

  （JMCシリーズ成績が代表選考に直結する世界選手権、アジア大会と異なる）

JMCシリーズ　グレード別の加盟要件と権利

		グレードS（GS)(*5)	グレード1 (G1)	グレード2 (G2)	グレード3 (G3)
運用開始		2023年度／第3期～	2021年度／第1期～	2021年度／第1期～	2022年度／第2期～
加盟要件	大会の水準 （WAラベル）(*1)	WAラベル GOLD (ELITE) 相当	WAラベル SILVER (ELITE) 相当	BRONZE (ELITE) 相当 または 大会記録が 一定基準以上(*2)	大会の規模や運営に 一定の水準を求める
	コースのWA認証	必 要			
権 利	JMC呼称	使 用 可（グレード名も使用可）			
	JMC順位ポイントの付与	日本人上位 男子12名／女子8名	日本人上位 男子12名／女子8名	日本人上位3名	日本人上位3名 （記録条件の設定有り）
代表選考の権利	世界選手権、ｱｼﾞｱ大会 選考競技会の指定(*3)	選考競技会に指定	選考競技会に指定	選考競技会に指定しない	
	MGC関連呼称(*4)	使 用 可 （MGCファイナルチャレンジ）	使 用 可(MGCチャレンジ）		使用不可
	直接MGCに出場できる権利	－	1～3位+記録条件① 4～6位+記録条件②(*6)	1位＋記録条件① 2～6位＋記録条件②(*6)	ワイルドカードの記録としてのみ 対象対象大会

(*1)2021年のラベルは特例でELITE PLATINUM、ELITE、LABELの3種類　(*2)大会記録の一定基準は5月～10月／11月～4月で設定する
(*3)(*4)パリ2024オリンピックの代表選考を東京2020と同様のMGC形式により実施する場合
(*3)シリーズポイントによる選考に加えて一部の代表を選考競技会の結果により選考する場合　(*4)MGCを2023年秋に開催し、その後にファイナルチャレンジを実施する場合
(*5)グレードSは第3期(2023年度)から導入予定　(*6)MGCの出場権利にに関わる記録条件は、開催時期など考慮事項を協議の上設定する

ポイントの算出方法

記録ポイント ＋ JMCポイント ＝ パフォーマンスポイント

WAスコアリングテーブルを
基に算出した記録ポイント

大会のグレードに応じて日本人選手
のみに付与する
順位ポイント＝JMCポイント

※海外のWAラベル大会には、JMC
ポイントを付与するが、海外選手を
含む順位でのJMCポイントとする。

JMCポイント(案)

【男子】

カテゴリー	G1	G2	G3	オリンピック 世界選手権	アジア大会 アジア選手権	WAラベル Platinum Elite以上	WAラベル GOLD (ELITE) 以上
順位対象	国内選手のみ			外国籍選手含む			
条件	無条件		記録条件有り	外国籍選手含む			
1位	140	40	20	270	140	140	90
2位	105	30	10	220	105	105	70
3位	90	20	5	195	90	90	60
4位	75	0	0	175	75	75	50
5位	60	0	0	155	60	60	45
6位	50	0	0	145	50	50	40
7位	45	0	0	135	45	45	35
8位	40	0	0	125	40	40	30
9位	35	0	0	80	0	0	0
10位	30	0	0	70	0	0	0
11位	25	0	0	60	0	0	0
12位	20	0	0	50	0	0	0

【女子】

カテゴリー	G1	G2	G3	オリンピック 世界選手権	アジア大会 アジア選手権	WAラベル Platinum Elite以上	WAラベル GOLD (ELITE) 以上
順位対象	国内選手のみ			外国籍選手含む			
条件	無条件		記録条件有り	外国籍選手含む			
1位	70	20	10	135	70	70	45
2位	50	15	5	110	50	50	35
3位	45	10	3	100	45	45	30
4位	35	0	0	85	35	35	25
5位	30	0	0	75	30	30	22
6位	25	0	0	70	25	25	20
7位	20	0	0	65	20	20	17
8位	15	0	0	60	15	15	15
9位	0	0	0	40	0	0	0
10位	0	0	0	35	0	0	0
11位	0	0	0	30	0	0	0
12位	0	0	0	25	0	0	0

JMCシリーズ　成績の決め方(案)

直前期～当該期の2期間に各競技者が出場したシリーズ加盟大会のうち、一定条件下でパフォーマンスポイントが高い3大会（シリーズⅠは2大会）の合計で争う。

【条件】
① 3大会のうち少なくとも1大会は当該期のシリーズ加盟大会であること
② 海外のWAラベル大会も1大会のみ有効とする。
③ 日本代表として出場した国際大会はシリーズ加盟大会とみなす
【補足】
ただし、シーズンⅠの第0期についてはパフォーマンスポイトが高い1大会のみをカウントする。

【例１】

シリーズ	期	ｶﾃｺﾞﾘｰ	ポイント	有効ﾚｰｽ
シリーズⅡ	第1期	G1	1300	○
		海外	1250	○
	第2期	G3	1150	
		G2	1200	○
シリーズ総合ポイント			3750	

条件①②③とも満たしておりポイントの高い3大会を採用

【例２】

シリーズ	期	ｶﾃｺﾞﾘｰ	ポイント	有効ﾚｰｽ
シリーズⅡ	第1期	G1	1200	○
		海外	1300	○
	第2期	G2	1350	○
		海外	1250	
シリーズ総合ポイント			3850	

条件②により第2期 海外（1250)は無効

【例３】

シリーズ	期	ｶﾃｺﾞﾘｰ	ポイント	有効ﾚｰｽ
シリーズⅡ	第1期	五輪	1200	○
		ー		
	第2期	G2	1350	○
		G1	1250	○
シリーズ総合ポイント			3800	

条件③より第1期　五輪は有効
※世界選手権、アジア大会も五輪と同様

マラソンの日本陸連「主催」「後援」のあり方

これまでの構造

日本陸連の主催・後援大会から代表選考競技会、日本選手権を指定してきた。
その他の大会は日本選手権や代表選考との関わりがなかった。

これからの構想

従来の日本陸連主催・後援大会や代表選考競技会でなくても、シリーズに参画し、日本選手権や代表選考に関わることができる。

JMCシリーズ　今後の進め方

2021年4月26日	東京2020に向けたMGCシリーズ参画大会にシリーズ化について説明
2021年5～6月	加盟要件を検討➡シリーズ概要を決定
2021年6月後半	日本陸連理事会でJMCシリーズ概要を協議（*1） 〃　　オレゴン2022世界選手権・杭州アジア大会代表選考方針を協議 ➡いずれも承認を得られれば記者発表
2021年7月（*1）	JMCシリーズ加盟大会（グレード1・2のみ*3）を募集
2021年8月（*1）	応募内容を審査し、加盟大会とグレードを決定➡記者発表
2021年11月～	JMCシリーズ加盟大会開催
2022年春	シリーズⅠ（2020年10月～2022年3月）終了 第1期(2021年度）成績確定➡シリーズⅠ　第105回日本選手権者決定 2022世界選手権・アジア大会代表決定
2022年春	第2期（2022年度）に向けた シリーズ加盟大会のグレード更新・昇降格 新規加盟（グレード3を含む、*3）を募集

*1　6月に一部の大会を対象に先行募集し、加盟とグレードを決定、発表する可能性がある
*2　コミッションの名称、構成、役割等は今後検討
*3　グレード3は、第1期（2021年度）は導入せず、第2期（2022年度）から導入

将来的な構想

シリーズ全体の価値向上を図り
マラソンが日本の陸上界や
スポーツ界を牽引する
競技となることを目指す

WAや世界の動向にも対応し
加盟大会の「質」の向上にも努め
世界的にも高く評価される
シリーズを目指す

日本国内のハーフマラソンの
シリーズ化により
大会や参加者の増加など
ロードレース全体の活性化を検討

トラック＆フィールド、競歩にも
シリーズ方式を導入し
日本代表選考とも連動させ
強化にもつながる活性化を検討

JAAF

Japan Association of
Athletics Federations